

厚生労働科学研究費補助金（がん臨床研究事業）
分担研究報告書

東北地方におけるがん診療の実態調査

研究分担者 加藤俊介 東北大学加齢医学研究所 准教授

研究要旨

平成 23 年度に化学療法を実施する東北地方のがん診療連携拠点病院（以下拠点病院）と地方中核病院 153 施設を対象に行った、がん化学療法に関する均てん化の推進における現在の課題についてのアンケート調査結果を集計・分析し、各種学会、勉強会で報告した。さらにこれら結果を踏まえて、ネットワークを生かした Web カンファレンス、Web レジメン登録・審査システムの開発につなげた。

A. 研究目的

がん対策基本法に基づくがん化学療法の標準化・均てん化の推進は、医療過疎が問題となっている東北地方において重要な課題である。がん診療連携拠点病院（以下拠点病院）はがん医療を中心的に担う役割を持つが、真の意味での均てん化のためには地方中核病院（以下中核病院）との医療連携や協力が必要である。東北地方の既存のネットワークなどを有効に活用し情報を共有することは、今後進めるべく有効な施策の提言となるデータを提供する点で重要である。

B. 研究方法

平成 23 年度に、東北 6 県にある がん診療連携拠点病院（43 病院） 以外で 100 床以上を有する全国自治体病院協議会加盟病院（46 病院） 、 以外で東北大学病院がんセンター主催のがん薬物療法研修参加施設（64 病院）の計 153 病院を対象に行ったがん化学療法に関する均てん化の推進における現在の課題についてのアンケート調査を集計・分析し、東北地方のがん診療の均てん化推進に関する課題の抽出を行った。

（アンケート調査に関する倫理面への配慮）

本アンケート調査は患者を対象としていない。

C. 研究結果

アンケートの質問内容は がん診療についての病院規模、施設に関する調査、 化学療法レジメン審査・管理体制についての調査、 化学療法の実際の運用についての調査、 化学療法の院内パスの整備状況についての調査、 臨床試験実施に関する院内の体制や参加状況に関する調査、 専門的医療者養成に関する調査の 6 つの大項目からなり、61 病院（全回収率：39.8%）から回答を回収することができた（内訳：がん診療連携拠点病院 23 施設、その他 38 施設）。横断的カンファレンスの実施状況については、拠点病院の 90%以上で定期的開催されていたが、中核病院では 60%の施設で全く行われていない現状が明らかになった。また中核病院では化学療法レジメン審査・管理体制の整備や副作用対策マニュアルの整備は半数の施設にとどまっていた。これら体制の未整備についての一番の原因として、管理をしていく専門スタッフの人員不足が挙げられていた。これら結果について、他の研究分担者とともに情報共有を行い、WEB 上の腫瘍ボードやプロトコール統一化事業につなげることができた。

D. 考察

東北地方における医療過疎はがん診療にも影響を与えている。ネットワーク形成による情報共

有化は、化学療法の均てん化ならびに医療水準の向上に役立つ可能性が示唆された。

E. 結論

東北地方の拠点病院、中核病院を対象として化学療法に関する実施状況についてアンケート調査を行い、がん診療の均てん化推進における現在の課題を抽出することができた。

F. 研究発表

1. 論文発表

- 1) Tsushima, T., Taguri, M., Honma, Y., Takahashi, H., Ueda, S., Nishina, T., Kawai, H., Kato, S., Morita, S., Boku, N. Multicenter Retrospective Study of 132 Patients with Unresectable Small Bowel Adenocarcinoma Treated with Chemotherapy. *Oncologist*. 2012;17(9):1163-70.
- 2) Kawai, S., Kato, S., Imai, H., Okada, Y., Ishioka C. Suppression of FUT1 attenuates cell proliferation in HER2-overexpressing cancer cell line NCI-N87. *Oncol Rep*. 2013; 29:13-20.
- 3) Kato S., Andoh H., Gamoh M., Yamaguchi T., Murakawa Y., Shimodaira H, Takahashi S., Mori T., Ohori H., Maeda S, Suzuki T., Kato S, Akiyama S., Sasaki Y, Yoshioka T., Ishioka C. On behalf of Tohoku Clinical Oncology Research and Education (T-CORE). Safety verification trials of mFOLFIRI and sequential IRIS + bevacizumab as first- or second-line therapies for metastatic colorectal cancer in Japanese patients. *Oncology*. 2012;83:101-7.
- 4) Soeda H, Shimodaira H, Watanabe M, Suzuki T, Gamoh M, Mori T, Komine K, Iwama N, Kato S, Ishioka C. Clinical usefulness of KRAS, BRAF, and PIK3CA mutations as predictive markers of cetuximab efficacy in irinotecan- and oxaliplatin-refractory

Japanese patients with metastatic colorectal cancer. *Int J Clin Oncol*. 2012 May 26 [Epub ahead of print]

5) Shibahara I, Sonoda Y, Kanamori M, Saito R, Yamashita Y, Kumabe T, Watanabe M, Suzuki H, Kato S, Ishioka C, Tominaga T. IDH1/2 gene status defines the prognosis and molecular profiles in patients with grade III gliomas. *Int J Clin Oncol*. 2012 Dec;17(6):551-61.

6)加藤俊介：特集：がん医療におけるプライマリケア医の役割を考える-ここまで進歩した外来がん化学療法-『消化器癌（大腸癌・胃癌）』。日本医事新報 第4627号：pp53-56, 2012年

7) 加藤俊介：大腸がんに対する新しい分子標的薬（レゴラフェニブとアフリバセプト）。癌と化学療法 40巻：pp6-9, 2013年

8) 加藤俊介：Q9. 現在、日本で行われている抗がん剤、分子標的治療薬の臨床試験では、どのような薬剤がありますか？石岡千加史，上原厚子 編 がん化学療法とケア Q&A，総合医学社，pp.20-23，2012年

9) 加藤俊介：Q36. 化学療法において G-C S F 製剤やエリスロポエチンの使用方法を教えてください 石岡千加史，上原厚子 編 がん化学療法とケア Q & A，総合医学社，pp.84-85，2012年

10) 加藤俊介：Q24. Mg 投与によるシスプラチンの腎毒性軽減について教えてください 石岡千加史，上原厚子編 がん化学療法とケア Q&A，総合医学社，pp.56-57，2012年

2. 学会発表

1) 加藤俊介、石田卓、伊藤薫樹、蒲生真紀夫、西條康夫、佐藤淳也、柴田浩行、吉岡孝志、石岡千加史：東北地方中核病院を対象とした化学療法に関する現状調査。第10回日本臨床腫瘍学会 学術集会（大阪・大阪国際会議場）2012年7月26-28日、一般口演

2)杉山 俊輔、角道 祐一、吉田 こそ恵、秋山 聖

子、下平 秀樹、加藤 俊介、石岡 千加史：GIST に対する分子標的治療薬投与症例の検討。第 10 回日本臨床腫瘍学会学術集会（大阪・大阪国際会議場）2012 年 7 月 26-28 日、一般口演

3) 加藤俊介：胃癌：胃癌薬物療法における最新のエビデンス。第 10 回日本臨床腫瘍学会学術集会（大阪・大阪国際会議場）2012 年 7 月 26-28 日、教育講演

4) 下平 秀樹、添田 大司、蒲生 真紀夫、安藤 秀明、山口 拓洋、渡邊 みか、磯辺 秀樹、須藤 剛、加藤 俊介、石岡 千加史：オキサリプラチン、イリノテカン耐性大腸癌における EGFR 関連遺伝子の変異とセツキシマブ+イリノテカンの治療効果、安全性。第 10 回日本臨床腫瘍学会学術集会（大阪・大阪国際会議場）2012 年 7 月 26-28 日、一般口演

5) 井上 正広、高橋 信、添田 大司、下平 秀樹、渡邊 みか、三浦 康、佐々木 巖、加藤 俊介、石岡千加史：網羅的遺伝子発現解析により特定された 2 軸と分子生物学的および臨床的特徴との相関性。第 10 回日本臨床腫瘍学会学術集会（大阪・大阪国際会議場）2012 年 7 月 26-28 日、ワークショップ

6) 李 仁、秋山 聖子、大内 康太、大石 隆之、齋藤 菜穂子、高橋 秀和、加藤 俊介、角道 祐一、下平 秀樹、森 隆弘、高橋 信、大堀 久詔、吉田 こそ恵、石岡 千加史：悪性腫瘍に対する塩酸イリノテカンを含む薬物療法における UGT1A1 遺伝子多型と有害事象発現との関連に対する後方視的検討。第 10 回日本臨床腫瘍学会学術集会（大阪・大阪国際会議場）2012 年 7 月 26-28 日、一般口演

7) 加藤俊介、石田卓、伊藤薫樹、蒲生真紀夫、西條康夫、佐藤淳也、柴田浩行、吉岡孝志、石岡千加史：東北地方のがん診療拠点病院と地方中核病院を対象とした化学療法に関する現状調査。第 50 回日本癌治療学会学術集会（横浜・パシフィコ横浜）2012 年 10 月 25-27 日、示説発表

8) 二井谷 友公、加藤 俊介、蒲生 真紀夫、村川 康子、酒寄 真人、磯部 秀樹、下平 秀樹、秋山 聖子、吉田 こそえ、吉岡 孝志、石岡 千加史：進行大腸癌に対する L-OHP 間欠投与による有効性・安全性第 2 相試験 中間報告。第 50 回日本癌治療学会学術集会（横浜・パシフィコ横浜）2012 年 10 月 25-27 日、示説発表

9) 添田 大司、下平 秀樹、加藤 俊介、角道 祐一、高橋 信、高橋 雅信、鈴木 貴夫、蒲生 真紀夫、渡邊 みか、石岡 千加史：大腸癌における KRAS 遺伝子以外の変異と抗 EGFR 抗体薬の治療成績。第 50 回日本癌治療学会学術集会（横浜・パシフィコ横浜）2012 年 10 月 25-27 日、示説発表

10) 李 仁、高橋 昌宏、鈴木 貴夫、安田 勝洋、井上 正広、坂本 康寛、塩野 雅俊、添田 大司、高橋 信、角道 祐一、秋山 聖子、下平 秀樹、森 隆弘、加藤 俊介、石岡 千加史：セツキシマブ不応後にパニツムマブを施行した KRAS 野生型進行再発大腸癌の治療成績。第 50 回日本癌治療学会学術集会（横浜・パシフィコ横浜）2012 年 10 月 25-27 日、示説発表

11) 加藤 俊介：「大腸がん」 大腸がん 進行再発。第 50 回日本癌治療学会学術集会（横浜・パシフィコ横浜）2011 年 10 月 25-27 日、教育講演

12) 加藤俊介：東北地方のがんネットワークによる化学療法の均てん化への取り組み。第 3 回病診連携セミナー（仙台・TKP 仙台カンファレンスセンター）2012 年 11 月 8 日

G. 知的財産権の出願・登録状況

1. 特許取得

なし

2. 実用新案登録

なし

3. その他

なし